

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たち理念 …… ゆとりと寛容の心を持って接し、地域に根ざした生活を応援します	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	私たちは日々、理念に基づいてスタッフで取り組んでおり、毎日の申し送りの中で確認しながら取り組んでいます。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議などで報告を行い、理解してもらえよう説明、取り組みを行っています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当グループホームの近辺にはあまり民家はないが、大手メーカーの社宅が事業所の裏にあり、毎年、施設主催の納涼夏祭りに社宅の方々を招待し、家族ぐるみで楽しみに参加されています。そこで夏祭りを通じて近隣住民との交流があり、利用者も大変喜んでおられます。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、定期的(3ヶ月に一回に、)地域交流として地元小学校の生徒さんに施設に来て頂いています。また、地域の安川ほたる保存会より誘いがありました。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在は、在宅介護支援センターが主体となり、地域老人会への出席し健康診断、栄養相談、健康体操、施設や事業所の取り組みをの説明などを行っています。</p>		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>H20年度事業計画の中で、人材育成や個人目標に対し個人目標管理表に基づき取り組みを行なっています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて日頃の状況を口頭、あるいはケース記録にて報告しており、会議で出た意見等は今後の業務や活動に反映しています。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業を進めていく中で分からない点があった場合は、その都度連絡を取っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>認知症の実践者研修に出席し学ぶ機会があり、その資料を持ち帰って現場職員にも説明または回覧をおこなった。現在、成年後見制度の対象者はいない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>母体施設の園内研修に参加し、研修に参加出来ない職員に対しては資料の説明及び指導を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢やその他の条件は特に設けていません。採用後は本人の趣味活動を活かし利用者に喜んでもらえる様に、業務メニューの時間配分などを考慮しています。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>マナー、接遇に関する研修は法人全体で行い、質の向上に取り組んでいます。また、現場に置いては反する事があればその都度指導し、意識付けを促しています。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>育成に関しては、それぞれ施設全体の各委員会を担当しており、その中で決まり事などを自分の部署でどう業務に反映していくかしていくか、また、実際、現場に置いてそれが本当に出来ているかを見ていく上で職員の育成としています</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>H20年 8月より 地域のグループホーム部会へ入会しました。</p>		<p>今後はグループホーム部会のネットワークを活用し、その情報を元にサービスの向上へと繋げていく。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>有給休暇や休憩時間を通じ、個々のリフレッシュや他部署の職員との交流が出来るよう工夫をしています。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>年間の個人目標に対して実際、その向けて取り組んでいるか、目視と書類等で確認をし、遅れているようであればアドバイスを含め働きかけを行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時前に、家族、本人の意向及び事業所からの情報を確認した上で、本人のために何が必要なのかを見つけ出す機会を設けるよう努力をしています。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に担当ケアマネージャーより家族や本人意見や要望を聞き、その上で家族との話し合いを行い、本人及び家族にとって一番良い方法を検討しあつ事で信頼関係を築いています。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容をもとに母体施設や各事業所と連絡を取り検討しています。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談時に見学等を促し、事前に利用者が馴染める様な環境作りや体験の場の設定を行い、その都度家族と相談し安心して過ごせる雰囲気を作っていくようにしています。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあつ関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあつ関係を築いている</p>	<p>利用者が、自分の特技を生かした調理や裁縫などを職員と一緒に行うことで、職員自身も見習うことがたくさんあり、そういった相乗効果で利用者の主体性を尊重しています。</p>	

グループホーム 愛らんど

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	要望により、家族水入らずで外出して誕生会を行われたり、また家族の事情と要望により、職員と他入居者で利用者の交流の日として個人の誕生会をしたりと、みんなで協力し合い、お互いを支えあっています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人と家族との間で情報を共有し、面会時には利用者と家族との時間を大切にし、より良い関係が築けるよう支援しています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	近隣のなじみの場所へ出かけるなどの支援により、記憶の呼び起こしを行うようにしていますが、家族のよっては事情がある方もおられるので、事前に家族へ相談と打ち合わせの上で行うようにしています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わら合い、支え合えるよう努めている	共同作業、グループ活動などを通して、利用者同士が互いに協力しあって行なえるよう支援しています。又、利用者同士がそれぞれの得意分野を生かせる様支援しています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後であっても、事業所を通し情報を時々収集し、同時に当施設の情報も伝えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報や本人の意見を十分、考慮し本人の意向が反映されるよう努めています。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの情報やこれまでのサービス利用機関からの情報提供表や本人との会話にてのアセスメント作成にて把握に努めています。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の介護日誌に一人一人の一日の心身の状況を記録し、現状把握に努めています。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日申し送りで、その人の日々の暮らしが、どうであったかを考え、それを実行していくにはどうしたらいいかケアプランを基本としながらいろんな意見を取り入れ作成しています。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には、6ヶ月に一回の見直しを行なっているが、対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係職員とカンファレンスを行い計画の見直しを行なっています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌に記録する他に申し送りノートに気づきや提案を記入し実践や介護計画に生かしています。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所生活介護、共用型通所介護、入所により本人や家族の要望に対処している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用は併設施設を中心に行なっています。特に防災訓練においては、現在グループホームにおける火災事故等が問題となり、これに関しては消防署との合同訓練を年に1回行っています。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向が反映出来るよう法人全体のケアプランナー会議へ参加して、色々な情報交換をしています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在においては十分な連携が図られていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を第一に考えて受診の支援を行なっています。		



グループホーム 愛らんど

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診にてかかりつけ医に相談し、状態においては専門医の治療を受けてもらうよう支援しています。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院及び併設事業所の看護職員に状態によっては相談し協力支援をもらっています。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のソーシャルワーカーを通じ、常に情報交換しながら早期退院に向けての働きかけを行なっている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応困難な状況になった場合、家族、かかりつけ医、担当ケアマネと連携をとりながら、どの方向にもっていくか検討し方針を共有化するようにしています。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ！良！暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の身体状態が重度化になった場合、かかりつけ医の意見のもと、担当ケアマネジャーを中心に、家族や本人の要望に応えつつ、他部署の協力も得ながら現場職員一丸となって取り組んでいきます。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族に関する情報を転居先の機関と共有し新しい環境のもとご本人とご家族が安心して生活できるように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者に対しては、過去の生活歴を十分把握した上で対応を行っています。また、記録物は人目につかない適切な場所に保管しています。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が遠慮なく安心して思いや希望話せる環境づくりに努めています。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の要望や生活リズムに合わせて自由に自分のペースで生活出来るよう支援しています。但し寝てばかりで活動が少ない場合は本人の意欲が得るような活動を提供し参加するように促しています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その装いなどは、本人さんの好みを尊重している。散髪は本人の意思で施設内又は馴染みの理髪店を利用しています。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養管理は母体施設が行っていますが、それ以外に家庭菜園で収穫された野菜を使い、週に数回漬物作りや副菜作りを行っています。準備や片付けは職員と一緒に協力して行っています。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>制限なく自由に行っています。その他、手作りおやつ等を、利用者の希望を取り入れたり本を見たりして作っています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は日常生活の中で各個人の排泄パターンを把握をしています。また、散歩や便秘防止運動など体を動かす事により腸の活性化を促し、排泄がスムーズにあるよう支援しています。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の要望に応えられるように、いつでも入浴できるように準備している。但し、時間帯に関しては安全を優先し人員体制がきちんと確保出来た上で行なうようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、昼食後は自由に休息をとってもらっています。その他の時間も本人の希望に応じ休息してもらっていますが、昼夜逆転にならないよう適度な時間で起きて頂いています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者の趣味や特技、または性格等を把握した上で、その人に合った活動や日常生活の役割を楽しみを持って行なってもらうよう支援しています。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な人は、小額であるが自分で財布を持ち買い物等してもらっています。		一部の人のみの支援しか出来ていないので、もっと買い物などの機会の提供を考えていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があった場合は、その希望内容をきちんと聞き対応しています。ただ、自宅に寄りたい等の要望に関しては事前に家族へ連絡してから行うようにしています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	月に一回から二回のドライブの日を設定し、近隣の景勝地や公共の建物見学(図書館等)へ出かけています。しかし、家族を含めての外出はまだ行なっていませんが、誕生日の家族との外出は支援しています。		家族を含めての景勝地等への外出を運営推進会議などで家族に提案はしているが、まだ実行はできていない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人より要望があれば、本人がかけたり職員が代わってかけています。手紙においては、今のところ利用者からの要望はあっていませんが、あればその都度対応いたします。		子供や親戚、知人の方からの葉書などの便りがある方がおられるが、それに対する返信の支援ができていないので今後ご家族などと話し合い支援を行なっていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客があれば、場所の設定やお茶などの接待を行い、来客者に対して失礼のないように配慮を行なっています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険動作のある方に対し動作の察知、見守り、介助により危険防止に努めている。母体施設に設置されたリスク委員会に委員を一名選出し会議等での情報を委員より他の職員へ報告し全職員にて意識の向上を図っています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	当グループホームでは、常に利用者の管理体制に不備がない様に職員配置をしており居室や玄関など出入口には鍵はかけていません。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に利用者の所在の確認を行なっている。日中は、出来るだけ色々なレクリエーションに参加してもらっているので常に確認はとれている。居室で過ごされている時は、過度にならない程度に訪室しています。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分で裁縫をされている方は、裁縫箱を居室に置いている。裁縫された後や途中で職員が針などの安全確認を行なっている。その方の能力に応じ対応しています。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各事故の防止に関してはリスク委員会等に出席し、対応策マニュアルの共有化を行っています。また、実際に他部署と合同で訓練の実施を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習、緊急時のマニュアルを基に訓練を行なっているが、職員間で技術のバラツキがあるため、訓練後に反省会をしています。		全ての職員がマニュアル通り迅速に実践できるように、勉強会や講習会への参加の機会を増やしていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設を中心に行なっている。特に防災訓練においては、現在グループホームにおける火災事故等が問題となっておりこれに関しては消防署との合同訓練をおこなっています。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態の変化等、こまめに家族への連絡を行なっている。リスクに対する家族への説明時、対応策を家族と共に考え、なるべく抑圧のない生活の提供に努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	1人ひとりの体調に関しては常時観察しており異変があった場合はかかりつけ医と情報を共有し対応し、また家族へも連絡をおこなっています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては、かかりつけ医の定期受診により処方された薬を職員が準備をしており、その際、お薬手帳を見る機会があり目的等はある程度理解している。副作用や用量等についてはは医師の指示のもと管理しています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事提供をしてもらっている母体施設より、毎日手作りのヨーグルトが提供され、管理栄養士による献立において常に便秘対策の食事が提供されています。また、職員も排便観察をするとも毎日欠かさず歩行訓練や便秘体操を行ない排便の支援を行なっています。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯を装着されている方で、そのまま歯磨きをされる方がいるので、きちんと義歯を外し口腔ケアが行えるよう促しています。またその際は、歯肉の痛みの有無の確認をおこなっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状態が悪い利用者に関してはその原因が何なのか、本人の言動を元にかかりつけ医や栄養士と共に連携をとって行なっています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会に出席し、マニュアルの見直し及び感染症の情報について話し合いをしています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	母体施設よりの食事提供であり、管理栄養士により厳重な安全管理が行なっており、自分たちでのおやつ作りや漬物作りの場合も調理日の直前に買い物し鮮度のいい食材を利用しています。また、業者によるゴミ処理駆除や定期的な清掃、消毒にて常に清潔を保持しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	場所が三階建ての三階部分で、玄関が建物の一階にあり出入口としてイメージして作れていない。エレベーターを降りた入り口は、観葉植物や手作りの民芸品を飾り暖かい雰囲気作りを工夫しています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当グループホームは建物の3階にあり外観が非常によく、ホール天井には天窓が2箇所あり心地よい光が入ってきます。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内北側の窓の近くにゆっくり出来る空間を設け、利用者同士、または面会室としても活用しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が、写真を飾った馴染みの小物を持ってきたりして、その方らしい居室作りをされている。家族やご本人の希望を受け入れ持込ができる物については、受け入れていきます。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	住居の空気の入替えは毎朝行っており、それ以外では室温を確認しながら窓の開閉をしたり、利用者の訴え時には随時対応し、快適な空間を保っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアールやトイレ、浴室には手すりを設置している。床は、高低をなくし、全てバリアフリーになっています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室をわかりやすくする為に、暖簾をつけてるなど工夫をしています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダには鉢花を置いており、利用者が水やりなどをする事で植物を育てる喜びを引き出したり、またベランダの空きスペースで洗濯物を干したりと、そこで生活するうえでの自然な環境を整えています。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム 愛らんど

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3くらいが	
		職員の 1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3くらいが	
		利用者の 1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3くらいが	
		家族等の 1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自宅に住んでいた時と同等の生活がなるべく継続出来るように、掃除、洗濯物干しタタミ、食後の後片付け、買い物など、個人個人が本来持っている能力を引き出すようにしています。 また、地域住民との関わりを重点に置いており、まず、外部から施設へ来られているデイケアの利用者との関わりを少しずつ増やしています。 今後はそれに慣れられた上で地域へ少しずつ出向いていき、地域住民との関わりを増やしていくように予定しています。